

WEEKLY

RIメッセージ

フランチェスコ・アレツォ会長

UNITE FOR GOOD

地区方針

鈴木康仁ガバナー

ともに学び、ともに地域社会に貢献しよう!

クラブ方針

神谷馨会長

新たな時代へ 理想の未来への挑戦
環境変化に対応し、より魅力的なロータリークラブへ

第25回(通算1729回)例会報告		令和8年1月16日(金)	年男女放談②
ゲスト	米山奨学生 ホアン ヴァン ナム君		
出席報告	総会員数60名(計算会員数52名) 欠席15名 出席率71.15% 前々回修正出席率88.46%		
歌/会場	かがやく空 会場:ロワジールホテル豊橋 30F「ル・モン」12:30~		

米山奨学生贈呈

米山奨学生 ホアン ヴァン ナム君



会長の時間

神谷 鑿会長

皆さまこんにちは。2026年を迎える世界や地域社会の環境は激変と形容されるように大きく変化し続けています。私たちロータリークラブに求められる役割も変化し、

より一層広がっていると感じています。このような時代だからこそ私たちは改めて「奉仕の心」を原点に地域社会に向け貢献活動を実践していきたいと考えています。

今日はロータリーの四大奉仕の一つである「職業奉仕月間」です。職業奉仕はロータリーの原点とも言える考え方であり「自らの職業を通じて社会に奉仕する」というシンプルでありながら奥深い理念です。私たちロータリアンはそれぞれ異なる職業を持ち、異なる立場で社会と関わっています。しかし高い倫理観を持ち誠実に仕事と向き合いその成果を社会に還元するとの考え方は共通する姿勢ではないでしょうか。今月の職業奉仕月間に「自分の仕事は誰の役に立っているのか」「自分の職業を通じて、どのような社会貢献ができるのか」あらためて考えてみる時間にしていただければと思います。

そして今年のトレンドベスト3は、

1. 地域回帰・ローカル価値の再評価 地方創生から「地域の自立」地域の連携強化、暮らしの最適化

2. ビジネス・経済 量より質の経済 サブスク型、コミュニケーション型ビジネス、信頼・紹介・共感が最大の資産
3. ウェルビーイング (心身ともに満たされた状態)、生成AIの「日常インフラ化」AIは使わないと不利な時代へ

先週の理事会での承認事項を共有させていただきます。

2月6日 国際奉仕担当例会

講師に仲宗根ギリエールメ寛実氏を招いて卓話テーマ「ABTで活動する元ロータリー米山奨学生の報告」についてお話ししていただきます

2月13日 フォーラム「国際奉仕」

2月6日の卓話を踏まえてフォーラムにて意見交換。当クラブの国際奉仕について話し合います。

2月20日 IM報告例会

5名の担当会員に報告していただきます。

2月27日 卓話例会

生成AIについて「今さら聞けない生成AIとは?」のテーマで講師 大野博之氏にお話ををしていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

入会記念日祝い

山下 孝会員



ロータリーの友読みどころ

鶴殿健次雑誌副委員長

「表紙」能登応援ポスター「頑張ろう能登」より、世界農業遺産「白米千枚田」の美しい風景です。

○RI会長メッセージ 横組み P3

1月は「職業奉仕月間」です。たとえ誰も見ていても、常に「正しいことをする」という強い意志と行動規範を道しるべに、「四つのテスト」とともに歩みましょうと話しています。

職業奉仕の意義を見つめ直しましょう。ご一読ください。

○特集「日本が誇る工芸技術はいま 輪島塗工芸師たちが切り開く新たな物語」横組み P5

石川県・富山県 第2610地区とアメリカ・カリフォルニア州第5280地区が協力して行われました。職業奉仕チーム(VTT)として輪島塗の製造や販売に関わる若手5人がロサンゼルスで研修しました。この職業奉仕チームは、補助金活用の新たな参考事例になる取り組みになるそうです。

○「ワークウェア例会で仲間の仕事をもっと身近に」横組み P18

福島RCが創立75周年を迎えて、仕事着を着て、仕事道具を手にして例会が開催されたそうです。伝統あるクラブの、新たな挑戦が紹介されています。

○特別企画「参加して良かったポリオ根絶活動」 横組み P22

ロータリー公共イメージコーディネーター(RPIC)と『ロータリーの友』とのタイアップとして、全国からポリオ根絶活動のエピソードを募集しました。募金活動からワクチン投与活動まで多岐にわたるエピソードが掲載されています。

○「ELEVATE ROTARACT」横組み P40

綾部RACの活動が掲載されています。毎月1回FMラジオ番組を放送してメディアを通じた新たな可能性を実感しているそうです。

○「SPEECH」 縦組み P2

「寄り添いの経営」徳武産業(株)代表取締役会長十河孝男氏の講演が掲載されています。

高齢者の足の悩みに寄り添い、介護シューズを開発した会社です。開発から現在に至るまでの苦労された話が掲載されています。ぜひご一読ください。

○「俳壇・歌壇・柳壇」 縦組み P12

名古屋錦RCの石井弘子さんが今月も、俳壇・歌壇に掲載されています。ほかにも2760地区の方が頑張って掲載されています。

人生の岐路『あの時違う人生を歩んでいたら…』

山本雅久会員

大須賀憲太会員

人は長く生きていると、「あの時、違う選択をしていたら、どうなっていたらいいだろう」そんな人生の分岐点を、誰しもいくつか思い浮かべるのではないかでしょうか。

私はこれまで、

「反省はしても、後悔はするな」

という信条で生きてきました。

自分が下した決断を、あとから何度も振り返って悔やむことは、あまりしていませんでした。

しかし今日はあえて、私自身の人生で思い当たる岐路について、お話ししたいと思います。

それは、1973年、大学を卒業したときのことです。

当時は高度経済成長の真っただ中でした。

さらに、4年前に東大入試が中止された年の卒業生が就職する時期でもあり、東大生がいない世代でした。

その影響もあって、国立一期校や早慶などの私学には、想像以上に多くの就職先から声がかかりました。

一流企業からの誘致封筒が次々と届き、机の上には封筒の山。

「いつでも就職できるだろう」

そんな、今思えばずいぶん甘い考えを抱いていました。都会に留まるか、長男として故郷に帰るか、という選択もありました。

もう少し勉強したい。

正直に言えば、まだ社会に出たくない。

そう思って、就職を先延ばしにしたのです。

ところが、その直後に第一次オイルショックが起こりました。

原油価格の大幅な値上げ、トイレットペーパーの買い占め騒動、急激なインフレ。

世界経済は一気に冷え込み、日本も深刻な不況に突入しました。

就職を先延ばしにする決断はしましたが、数多くあった就職案内の中で、特に迷ったのがマスコミ関係でした。

なかでも、NHK報道部名古屋支局の先輩から直接声をかけていただいたことは、今でも鮮明に覚えています。

あの時、もしその道を選んでいたら――

そう思うことが、まったくないわけではありません。

翌年以降、就職は一転して困難な時代になりました。

大学院に進んだ友人の中には、かえって就職に苦労した人も少なくありませんでした。

結局私は豊橋に戻りましたが、思うような就職先はなく、

複数の国家試験を受験し、何とか合格することができ、今まで歩んでくることができました。

実は私は、祖父が開設した法務合同事務所の三代目にあたります。

父から事業の承継を強制されたことは、一度もありませんでした。

だからこそ、安い就職を選ばず、あえて難しいとされる国家試験に挑戦する道を選びました。

それが、自分自身にとって本当に納得できる選択だと考えたからです。

振り返ってみると、この時の決断が、結果として昨年、四代目となる息子へと事務所を承継することにつながりました。

この業界では珍しい、長く続く事務所となったことは、今では私にとって何よりの喜びです。

もし、あの時違う人生を歩んでいたら。

確かに、別の景色があったかもしれません。

しかし、あの選択があったからこそ、今の自分があり、そして次の世代へと道をつなぐことができたのだと思っています。

人生に正解はありません。

大切なのは、選んだ道をどう生き、どう次につないでいくか。

そう自分に言い聞かせながら、これからも歩んでいきたいと思っています。

ご清聴、ありがとうございました。

年男年女放談②

岡本久永会員

新年明けましておめでとうございます。

昭和17年「うま」年生まれの岡本です。年男放談をさせていただきます。8回目のうま年です。放談ですので思いつくままに私の好きな名言、心したい聖人の言葉、名言を紹介させていただきます。

仏教は慈悲の教えだと言われております。一般には思いやりの心と言っていますが慈悲といえばもう少し具体的です。「慈」とは相手に楽しみを与えること。「悲」とは相手の苦しみ悲しみ悩みを抜いてやることです。

比叡山延暦寺を開かれた天台宗の開祖伝教大使最澄は「山家学生式」の中、「悪事を己に向かえ、好事を他に与え、己を忘れて他を利するは慈悲の極みなり」と言っています。悪しきことは自分が引き受け善いことは他人に与え、自分のことは考えずに他人の利益になるようにすることが慈悲だと、自分を忘れてするのでなければ本当の慈悲ではないと言っています。

これが果して出来るかなかなか難しいです。(忘己利他)

「山家学生式」に記された有名な最澄の名言は、“国宝とは何物ぞ 宝とは道心なり 道心ある人を 名づけて国宝となす 故に古人のいわく 経寸10枚是れ国宝にあ

らず 一隅を照らす これ即ち国宝なり”と。これは日々の努力や修行勉強の大切さを説いています。少し解釈を加えれば「お金や財宝ではなく自分の置かれた場所(一隅)で精一杯努力し周囲を明るく照らす人こそが何物にも代えがたい国の宝である」という利他の精神と自己の役割を全うすることの尊さを説いた教えと言えます。

ところで「思いやり」と言えば、中国春秋時代の孔子とその弟子、子貢との話しが有名です。子貢問いていわく、“一言にして以て終身これを行ふべき者ありや”と、子いわく“それ「恕」か 己の欲せざるところ人に施すことなかれ”と「恕」とは思いやり、自分にしてもらいたくないことを人にもしないことだ“と。

儒教(朱子学)に影響を受けたと思われる江戸時代後期の儒学者佐藤一斎、岐阜美濃岩村出身で西郷隆盛、吉田松陰、渡辺崑山等々その教えが深く影響を及ぼした人で、「指導者の聖書」ともいわれる「言志四録」に

“少にして学べば則ち壯にして為すことあり 壮にして学べば則ち老いて衰えず 老いて学べば死して朽ちず”と学びの重要性を説いています。又、有名な“春風以人接 秋霜以自慎”(人に接するには春風のように温かくさわやかな心で、自らは秋霜の如くきびしく慎みなさい)と、心したいものです。

次に福井の永平寺開祖曹洞宗の道元禅師の禅語を2~3(沢山ありますので)紹介させていただいて放談を終えたいと思います。

道元禅師の書「正法眼藏」「現成公案」に“仏道を学ぶというは自己を学ぶなり、自己を学ぶというは自己を忘るなり、自己を忘るというは万法に証せざるなり、万法に証せざるというは自己の身心他己の身心をして脱落せしむなり”と。

道元禅師の仏教(道)は自己究明の教えだと。

- ・この法は人々分上豊かにそなわれりと言えども修せざるにはあらわれず証せざるには得ることなし
- ・霧の中を行けば見えざるに衣しめる、よき人にまじわれば見えざるによき人となる
- ・いたずらにすごす月日は多けれど道を求むる時ぞ少なき
- ・利行は一法なりあまねく自他を利するなり
- etc

ご静聴ありがとうございました。

本多英司会員

あけましておめでとうございます。本日は「年男放談」ということで、お時間をいただきありがとうございます。改めまして、今年年男を迎えるました、丙午年生まれの本多英司です。

現在59歳で今年の10月に大台に乗りります。自分が60歳になるなんて、全く実感がありませんが、時間がたつのは早いもんだと感じています。

私は昭和41年10月に新城で生まれました。母のおなかにできたときからこの世に出てくるまで、全てこの年

で成長した生粋の丙午年です。

「三つ子の魂百まで」と言われますが、最近自分のベースが作られた幼少期をよく思い出します。年取ったんですかね（笑）。

私が育ったのは隣まで 200m くらいあるような田舎で、幼少期から大自然の中でのびのびと育ちました。当時両親は仕事に忙しく、もっぱら同居していたおじいちゃんやおばあちゃんと一緒に過ごす時間が多かったです。

おじいちゃんは、第 2 次世界大戦に出征した元軍人です。赤札が来たときは、もう帰ってこれないと覚悟したそうです。が、運よくジャワ島で終戦を迎え、家に帰ってくることができました。まさか生きて帰ってこられるとは思っていなかったと言っていました。

彼にはたくさんの事を教えてもらいました。凧づくり・コマづくり・山菜取り・たけの子とり・松茸探し・野草・薬草・マムシ酒・カエルの食べ方等々。さすが戦争を生き延びた元軍人。一通りのサバイバル技術を生活の中で教わりました。ですから、今でも万が一のことがあつても生き延びる自信があります（笑）。

あとは、将棋（飛車角抜きから）・囲碁（数十目ハンディから）・花札・麻雀（ルール・役・符計算等）等も教えてもらい、8歳くらいには全てマスターしました。特に麻雀では高校デビューで敵なし。大学時代は良く徹夜で麻雀していました。でも今は 10 年以上やってなくて勝負感がなくなってるから誘わないでください。

おばあちゃんは踊りの先生をしていたので、しおつちゅうお弟子さんがきていて賑やかでした。採ってきたつくしとか、ワラビとか、ぜんまいとかと一緒に料理するのが好きでした（食べるの子供の口に合わなかつたのでそれほど好きではなかったですが）。

子供のころは本当にのびのび暮らしていて、初めて大学で名古屋に出たときは衝撃でした。当時はやっていたディスコとかに毎晩通い、まさに大学デビューですね（笑）。

★ニコボックス

神谷 錦・高橋哲也：年男年女放談 2 回目。岡本会員、本多会員楽しみにしています。よろしくお願ひ。

山下 孝：入会記念日をお祝い頂き。

鵜殿健次：ロータリーの友紹介させて頂きました。

大須賀憲太・山本雅久：会員スピーチをさせて頂き。

岡本久永・本多英司：年男放談をさせて頂き。

★幹事報告

- ・2026-27 年度クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナー開催のご案内、ハイライトよねやまが届いております。

就職も三菱電機で名古屋に配属され、モーターの開発（今を時めクリニアモーターの研究等）をしていました。その後、結婚を機に家業が豊橋だったので、豊橋にきました。

しかし、豊橋にはもともと生活の拠点がなかったので、ほぼ知り合いおらず。そんな時、みなとライオンズクラブのメンバーだった父が、友人（マルキチの故鈴木宜男さん）に「豊橋商工会議所青年部に息子をいれてよ」と言われ、そのまま青年部に入会しました。そこではたくさんの友人に恵まれ、たくさんの事業を興し、20 周年の会長までさせていただきました。

そしてその流れから高校の PTA で神谷会長と出会い、ロータリーに誘っていただき、入会し、現在に至る、という流れです。

今日、12 年前の年男放談の原稿を発見しました。以前お話した「ジャーの法則」の通り、あつという間の 12 年だったと感じています。そこには、「次回の年男放談では、今よりも良いお話ができるよう頑張ります」とありました。初々しいですね（笑）。その 12 年の間に、幹事・会長など、たくさんの経験をさせていただいたロータリークラブには感謝でいっぱいです。また 12 年後の「年男放談」でも、元気にみなさんの前でお話できるよう精進したいと思います。

本年の干支である午（馬）は、その勢いある姿から“前へ進む力”を象徴するといわれます。今までずっと「勢い」で乗り切ってきた気がします。それはこれからも変わらないと思いますが、もう一つ大人になったと自覚して、「待つこと」「任せること」「見守ること」も加えながら、自分らしく前進し、着実な成長を遂げる一年としたい所存です。

皆さんにとっても、実り豊かで素晴らしい一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

杉田和俊・太田和彦：山本先生、大須賀さん会員スピーチがんばって！！

山下 孝：2 月に役員退任し東京へ戻ることになりました。3 月中旬までは豊橋にいます。できるだけ例会も出ますのでよろしくお願い。2 年間お世話になりました。

山下 孝：年末家族会の写真を頂き。

札木聖巳ニコボックス委員

★他クラブの例会変更

- 1月27日(火) 豊橋北RC クラブフォーラム
田原パRC 会場都合のため(サイン無)
- 1月28日(水) 豊橋東RC クラブフォーラム
- 1月29日(木) 豊橋RC クラブフォーラム
- 2月 2 日(月) 豊橋南RC 明るい家庭作り推進大会
- 2月 3 日(火) 宝飯RC 合同節分例会(サイン無)
- 2月 4 日(水) 豊川RC 豊川宝飯RCと合同節分例会
- 2月 5 日(木) 田原RC 移動例会のため